

OIC

ORIGINAL ORIGINAL オリジナル コンフィデンス
CONFIDENCE



2006 12/04

DEC. Vol.40 No.2069
www.oricon.co.jp

表40巻・第2069号・平成18年12月4日発行(隔週刊曜日発行)
印刷42年12月23日・第3種郵便認可・発行所東京105-4376号 株式会社朝日新聞

SPECIAL ISSUE

PS3 × Wii × Xbox360 激突

加熱する
ゲーム・マーケット

次世代ゲーム機
それぞれの方向性

SPECIAL ISSUE

PS3 × Wii × Xbox360 激突 加熱するゲーム・マーケット
次世代ゲーム機、それぞれの方向性

OC BULLETIN BOARD

速報版 月間マーケットレポート (オーディオ/映像)
Oricon Monitor Research
オリコンメディア登場数ランキング! 今週のニュースな人たち
12月度 欲しいモノ・ランキング Vol.1 (総合編)
F1、F2によるCM好感度ランキング タイアップ音楽編

Next Break

期待度ランキング シングル/アルバム/DVD
Artist/リトル・マン・テイ、イダセイコ

SPECIAL ISSUE

マイスペース日本版スタート 緊急インタビュー
*マイスペースInc. クリス・デウォルフCEO他

OC INTERVIEW

アジアミュージック・エンタテインメント始動
「交流が原点であり、目的でもあります。エンタテインメントにおいてアジアの架け橋になりたい」
呉 勇敏氏 (株)アジアミュージック・エンタテインメント 代表取締役会長

THE TREND COUNCIL

史上最大の問題作!? ビートルズ「LOVE」の聴き方

PRODUCER INTERVIEW

WaTのシングル4部作をコミック化、映像化
「一つの優れたソフトをどう展開するかが、ますます大事な時代」
手島裕明氏 (株)集英社 第1編集部長代理兼りぼん編集長
京都発音楽のお祭り「みやこ音楽祭」今年は関東でも開催
「みやこ音楽祭」みたいないイベントが日本各地に起これば、音楽シーンも活性化していくと思います」
川本真太郎氏 (みやこ音楽祭)代表 × 岸田繁 (くるり) × 佐藤征史 (くるり)

CREATOR INTERVIEW

日音新レーベル第一弾アーティスト
「いい音楽には時代も人種も関係ない」ゲイリー・アドキンス (アーティスト)

INSIDE MOVES

雑誌「SHOWCASE MAG」好評 VIBEが目指す紙とデジタルのシナジー効果

ORICON POWER NEXT

機員サイモン (V)

DVD FOCUS

J・ボンドのすべてをアタッシュケースに詰め込んだDVDボックス

SPECIAL ISSUE

マイスペース日本版スタート

緊急インタビュー クリス・デウォルフ氏 他
(*マイスペースInc. CEO) P.52



日中をエンターテインメント文化で交流
アジアミュージック・エンタテインメント始動
「交流が原点であり、目的でもあります。エンタテインメントにおいてアジアの架け橋になりたい」
呉 勇敏氏 (株)アジアミュージック・エンタテインメント 代表取締役会長 P.58



速報版 P.13
月間マーケットレポート (オーディオ/映像)
11月度のオーディオ・ビジュアルマーケット概況

THE TREND COUNCIL
史上最大の問題作!?

ビートルズ「LOVE」の聴き方 P.73



PRODUCER INTERVIEW
WaTのシングル4部作をコミック化、映像化

手島裕明氏
(株)集英社 第1編集部長代理兼りぼん編集長 P.66

京都発音楽のお祭り「みやこ音楽祭」今年は関東でも開催



川本真太郎氏 (みやこ音楽祭)代表 × 岸田繁 (くるり) × 佐藤征史 (くるり)

CREATOR INTERVIEW
日音新レーベル第一弾アーティスト

ゲイリー・アドキンス (アーティスト) P.62



PS3×Wii×Xbox360 解禁するゲーム・マーケット



Photo/Yasuyuki Ishizuka

今年6月2日に設立されたレコード会社機能を持つ総合エンターテインメント会社アジアミュージック・エンタテインメント(代表取締役 真田佳明氏)。北京に本社を持つアジアミュージック・ホールディング・グループが100%出資。アジアに広がる10数社のグループとの連携により、日本の優れたアーティストをアジアに、アジアの優れたアーティストを日本に紹介し、音源制作やプロダクション業務、コンサート制作やアーティストのコーディネーションも行うという。その設立経緯から展望までを会長である呉曉敏氏に伺った。

日中をエンターテインメント・文化で交流 アジアミュージック・エンタテインメント始動 「交流が原点であり、目的でもあります。 エンターテインメントにおいてアジアの架け橋になりたい」

呉 曉敏氏

(株)アジアミュージック・エンタテインメント 代表取締役会長

中国上海市生まれ 上海音楽大学卒業、88年来日。93年東京藝術大学大学院音楽学修士称号を以って卒業。日本音楽学会、東洋音楽学会の両学会に同時入会。97年日中合作上海新偶像藝術学校創立。99年中華藝能設立、代表取締役就任。西城秀樹の万里の長城コンサートや、北京オリンピックに関連する大型レギュラー番組「金メダルへの道」などの日中エンタテインメント事業を手掛ける。03年、北京で合弁会社北京無限藝能文化傳播有限公司設立、06年までの3年間で無限藝能がテレビ、広告、レコード、音楽ポータルサイト、マネージメントなどのマルチメディア事業を統括する12の会社を含む国際企業アジアミュージック・エンタテインメント・ホールディング・グループ(亜神音楽娛樂集團)にまで成長した。創業者でグループの取締役として、今年6月に日本で株式会社アジアミュージック・エンタテインメントを設立、代表取締役会長に就任。

華流を起こす原動力に

——18年間も日本で暮らされているそうですね。

呉 ええ。東京芸大大学院への留学生として来日して以来です。芸大在学中から、在日中国芸術家連合会のようなものを組織し、文化交流のため、二胡など、中国古典楽器を日本に紹介する演奏会を行っていました。私自身も、上海音楽大学時代から笛を専攻していましたから。その活動を充実させるため、必要に迫られ、会社を設立したのが最初でした。日中国交正常化20周年記念の92年頃でした。そして99年には、中華藝能（現アジアミュージック・エンタテインメント中華藝能部）を設立。これはテレビ番組『ASAYAN』の影響が大きかった。番組からデビューしたユニット太陽とシスコミュニケーションのひとり、本多ルルを発掘したのが我々だったものですから。そこで芸能プロダクションとしてスターを育成していくという発想が芽生えました。テレサ・テン、アグネス・チャン、歐陽菲菲という歌謡曲の台湾、香港出身のスターはいましたが、中国本土出身、またJ-POPスターはいなかったです。

——中華藝能の中心的業務はどのようなものだったのですか。

呉 やはり中国の芸術や芸能を日本に紹介することです。と、日本のアーティストが中国で活動するときのコーディネーター。西城秀樹さんが98年、万里の長城で行ったコンサートも、印象深い仕事のひとつです。世界遺産ですから、あそこでコンサートをするためには、さまざまな役所の許可が必要になります。文化交流を続けてきた実績と、強力な人脈なければ不可能だったでしょう。その中華藝能が軌道に乗ったので、中国に合弁会社設立からグループ会社まで発展することができ、そのグループ会社を統括するアジアミュージック・ホールディング・グループの100パーセント出資により誕生したのが(株)アジアミュージック・エンタテインメントです。日本初でしょうね、中国資本によるエンターテインメントの日本法人は。その業務内容は多岐に渡りますが、留学生による文化交流という原点を忘れることはありません。原点かつ目的というか。ただ、交流の範囲や規模は広がりましたが。アジアを視野に入れています。

——「視野の広さ」が、中華藝能とアジアミュージック・エンタテインメントの相違点でしょうか。

呉 そう解釈していただいてもかまいません。広い視野を確保するため、当然、業務の幅も広がりますが。ちなみに、今もお話したとおり、中華藝能までは、環境や状況が先走り、それをフォ

ローするため、必要に迫られて設立した会社でした。しかし、アジアミュージック・エンタテインメントにおいては逆です。環境や状況を自ら作り出そうと。我々が活躍できる環境、我々が必要とされる状況が訪れるのを待つのではなく、自ら創造しよう。たとえば我々が原動力となり、華流（フェアリウム）を起こすとか。以前から中華圏の俳優や映画は、日本でもある程度の人気を得ていますが、まだ「流れ」になる一歩か二歩手前で止まっています。その最大の理由は、韓流で言うところのペ・ヨンジュンなどのようなシンボルがないからです。韓流の場合、既存のスターがその役を担ったわけですが、華流の場合、その一翼を担う新人も輩出したいと考えています。実際、華流のシンボルになれる可能性を持った新人アーティストもいます。阿蘭（アラン）です。

「巨人の肩に乗る」という発想

——阿蘭の情報を少し教えていただけますか。

呉 チベット出身の19歳の女性アーティストです。17ヶ国24組が出場した今年の上海アジア新人音楽祭で銀賞を獲得しています。現在、エイベックス・エンタテインメントとの業務提携により、来年夏頃の日本デビューを計画中。日本と中国は、近いようでも遠いですから、特にエンターテインメントは、いくら中国で歌唱力を評価されても、そのまま日本に持ってきても売れません。日本向けにローカライズしないと。逆に、最新J-POPをそのまま中国をはじめとするアジアに持っていくのも難しい。それぞれの味つけが必要でしょう。しかし、現時点では、制作のベースは、日本でなければならない。なぜならアジアでは、言うまでもなく、日本がもっともクリエイティブだからです。それと我々が培ってきた中国・台湾・香港・マレーシア・シンガポールなど中華圏でのマーケティング、そしてアジア各地から我々が発掘してくる新たな才能を組み合わせると、新しいカルチャーが生まれると信じています。我々が作ろうとしているエンターテインメント、たとえば音楽にしても、日本限定仕様ではありません。常にアジアを意識します。アジア仕様と言ってもいいでしょう。

——エイベックス以外との提携もお考えですか。

呉 モンゴル出身の馬頭琴をやつるイラナは、コロムビアミュージックエンタテインメントからアルバムを発売しました。我々の希望は、日本の大手レコード会社それぞれが持つ、得意分野とのコラボレーションです。エイベックスなら女性シン



Sista Five
(シスタ・ファイブ)

大阪府出身の5人姉妹(長女 Aicoo、次女 Ryowoo、三女 Miyuu、四女 Suchik、五女 Akyee)。04年「Best of Audition」に出場、審査員特別賞受賞し注目を集める。以来ライブを中心に活動。06年12月6日アルバム「VIVA! MUSICA」(XNAM-10001)でデビュー。今年10月に中国・上海で行われた「上海アジア音楽祭新人歌手大賞」に出場し、最優秀魅力賞、銅賞を受賞した。



イラナ

87年、中国・内モンゴル出身。内モンゴル芸術大学中専部在学中からその才能が目目され、馬頭琴の新しい世界を切り開く期待のアーティスト。04年2月にリリースされた、アジアの女性アーティストを集めたCDアルバム「ASIAN MUSE 亜細亜の女神」(TO)に参加。同年9月から日本に拠点を置き活動。05年4月、アルバム「美麗の大草原」でコロムビアミュージックエンタテインメントよりデビュー。NHKテレビサンエンスZero、長編ドキュメント「偉大な旅人・鄭和」のテーマ曲担当などで活躍中。



RURU (ルル)

76年、中国・遼寧省出身。本名、本多ルル。93年「外国人歌謡大賞」(テレビ東京)決勝出場、95年「在日中国人日本語歌謡コンクール」でグランプリ受賞。99年4月、テレビ東京「ASAYAN」からつくろプロデュースによる太陽とシスコムーンを結成し「月と太陽」でデビュー。太陽とシスコムーン解散後、00年10月から台湾を拠点に活動。CDアルバム3枚リリースし、テレビドラマやCMなどで活躍。07年3月日本活動再開、初の日本語ソングアルバムがAVTより発売される予定。



阿蘭 (アラン)

87年、チベット出身。幼い頃から二胡を習い、03年に解放軍芸術学院声楽科に入學。現在、中国では歌手、女優としても活躍。今年10月に中国・上海で行われた「上海アジア音楽祭新人歌手大賞」で銀賞を受賞した。来年、日本デビュー予定。

ガーを育てるノウハウをお持ちだし。そのノウハウをお借りしたい。中国に「巨人の肩に乗る」という諺がありますが、まさにそれ。他のレコード会社とも、アーティストの特性に応じ、これからも幅広く積極的に提携させていただければと思います。ただし肝心なのは、我々のコンセプトや思想に賛同していただけること。丸投げはしません。阿蘭なら、彼女の声の素晴らしさを無視してまで、日本向け音源を制作することはしません。それは一音楽家としてもできない話です。彼女の声の素晴らしさを最大限に生かしつつ、日本にアジャストさせるといった方向性が譲れない基本路線です。それがひいては、文化交流より次元高い、文化融合につながるのではないのでしょうか。そこをご理解いただいたから、エイバックスとも業務提携ができたわけです。

——阿蘭やイラナが輸入型なら、輸出型もあるのでしょうか。

呉 日本で発掘したアーティストをアジアへ紹介するのも、アジアミュージック・エンタテインメントのひとつの理想形です。ルル(本多ルル)もそのひとりです。今年の上海アジア音楽祭新人大賞を獲得した5人姉妹のシスタ・ファイブもいます。彼女達は、韓国籍ですが、日本生まれの日本育ち。コーラスもダンスも得意です。デビュー曲「Bur Girl～他人関係」はラテン調にしました。ある意味、まったく国境を感じさせない。それこそが真の融合ではないのでしょうか。中国ではこう言います。土で作った2体の人形から、首や手足だけを取り、1体にするのは難しいと。1回潰し、土に戻してから、1体の人形を作るほうが賢明だと。それが融合の意味ではではないでしょうか。我々の思想とも相通じます。

エンターテインメントが 往来する架け橋に

——「真の融合」を実現させるためには、アーティストだけではなく、プロデューサーをはじめとするクリエイターの往来も重要ではないでしょうか。

呉 おっしゃるとおりです。だから、音源制作の軸足を置くのは日本だとしても、もしもアーティストによって台湾発あるいは上海発のほうがよかつたら、迷わずにそちらを選択するでしょう。その点でも、多くの選択肢を持っているのが我々の特徴であり、武器でもあるわけです。ただ、「日本で売れている」というだけで、誰かがそのプロデューサーだけを中国や香港に連れて行っても、成功は望めません。現地スタッフと軋轢を生むだけです。

今、中国で活躍されている音楽プロデューサー菊地圭介さんにしても、5年以上も現地に住み着いたから現地の音楽シーンと関わっていらっしゃるわけですし。しかし、我々がサポートできるなら、5年も待たずに活躍できる可能性があります。事実、すでにそうした計画も進行中です。必要なら、台湾や香港のプロデューサーが東京を拠点に活動するサポートもできますし。エンターテインメントにおいて、アジアの架け橋になればと思っています。

——アジアにおけるエンターテインメントのハブ空港とも言えそうですね。

呉 12社を越えるグループ企業からさらに飛躍させようとしているので、可能にしたいですね。中国本土のみならず台湾や香港などでも、音楽制作、スタジオ業務、広告代理店業、コンサートやイベント制作、マネージメントからITやモバイルまでが揃っていますから。中国は、海賊盤などが出回り、知的財産についてのコンプライアンス意識が低いイメージがありますが、2010年の上海万博までには、法律整備も含め、さまざまな状況が変わるはず。今までの中国のプロダクションは、海賊盤CDをプロモーションの一環とも捉えている。国土が広いですから、たとえ1億円の宣伝費を投じて、大きな効果は期待できない。ところが、海賊盤なら一夜にして千里を走る。その知名度による興行収益で儲けるという流れに任せている状態です。しかし、それでは先進国としては成り立ちません。我々が成功を収めれば、今以上に先進国的発想になるでしょう。結果、海外からより多くのエンターテインメント企業が参入しやすくなるでしょう。中国の活性化は、アジアへも波及するものだと思いますし。

——アジアミュージック・エンタテインメントは、カルチャーやエンターテインメントの牽引車でもあると。

呉 中国で行われるCM、映画、ドラマ、テレビ番組、PV撮影や日本人アーティストのコンサートなどのコーディネーターは、今もかなりの仕事量です。たとえばですが、中国本土は特に撮影規制が厳しいですし、日本との常識の違いもあるので、日本の撮影隊が日本の感覚で仕事をすると、大きな問題になる場合もあります。そのために警察や役所を走り回ったこともありました。中国では、人のつながりが重要。日本人が想像する以上です。だから、コネクションがないと、絶対にコーディネーターはできません。それを無視しては、何事も進みませんし。より多くのエンターテインメント企業が中国に入ってくれば、そのサポートやコーディネーターなど、我々が得意とする分野もさらに忙し

くなるでしょう。さらに我々が企画制作するテレビ番組の幅も確実に広がります。中国国内に設立した現地法人により、03年に企画制作した『金牌之路（金メダルへの道）』を大ヒットさせた実績も持っていますから。その番組は、公開オーディションで選ばれたスポーツ選手を育てる長期的ドキュメンタリー・スポーツ・エンターテインメントでした。いわばスポーツ版『ASAYAN』。08年の北京オリンピックに向け、その第二弾も企画中です。つまり、新人発掘という入口から、CDやテレビ番組などの出口までを網羅していることになります。もちろん配信やモバイルなどの現代的な出口も。携帯楽曲配信のインフラが整えつつあり、実現された場合、1曲ずつ確実に課金できますから、世界最大の携帯電話人口を誇る中国での可能性は無限大ではないでしょうか。配信を有効に使った日本発のヒット曲も実現可能です。

民族的なものは世界的である

——ゆくゆくは欧米進出もお考えですか。

呉 まずの上場を目指しますが、やがては国際的スターを輩出したいとは思っています。日本でも中国でも、英語を理解できない人達がマライア・キャリーやマドンナを聴いている現実が、我々を勇気づけてくれます。それは言葉というよりも音楽を聴いている証明に他ならないからです。だとしたら、コンテンポラリーなオリエンタル・ポップスを欧米の人達が聴くという逆転現象が起こり得ると考えています。その場合、あくまでも批評などではなくて私見ですが、女子十二楽坊のようなものではないでしょう。あれは中国のプロデューサーが輸出用に発想したスタイルですから。だから、中国のイメージが強い。それが狙いなので、当然ですが。アメリカに持って行ったときもチャイナとして認知されるでしょう。しかし、我々が理想とするのはアジア。オリエンタルが香るポップス。先ほど、紹介した阿蘭も、そうした認知のされ方で欧米に進出できる可能性を秘めています。彼女の声には、アジアのDNAがあるので。ですから、もしも彼女がアメリカ進出をするときがきて、我々は今回と同じ主張をします。彼女の声の素晴らしさを最大限に生かしつつ、アメリカにアジャストさせるといった方向性、それは譲れない基本路線であると。

——アジアのアーティストが欧米進出する場合、完全にアメリカ仕様にするよりアジア味を出したほうがいいと。



呉 はい。アメリカに進出するとき、アメリカ的なものやっても無理です。そこを多くの人達が勘違いをしてきたのではないのでしょうか。民族的なものは汎用性があり、世界的でもあります。民族的なものを意識しないところに世界的なものも生まれません。それが文化というものではないですか。しかし、伝統音楽や伝統芸能をそのままやっても欧米では通じません。あくまでも味つけ程度であり、香る程度でないと。そのためにも、先述した人形の例え話ではありませんが、1回解体し、再構築する必要があるわけで。それをやるには日本というか東京は最適な環境ではないでしょうか。

——呉会長は、中国偏重でも、日本偏重もなく、欧米偏重でもないような…。すべてを冷静に俯瞰されているように思いますが。

呉 自称「地球人」です。きっと18年も母国を離れ、外国で暮らしているせいでしょう。日本の影響は大きいですが、すべて染まったとも思いませんし。客観的に中国を見ることができるようになりました。そういう地球人である私から見ても、小泉首相時代、日中間のさまざまな架け橋の通行が滞りがちだったように思います。それが安倍首相の訪中により、渋滞が解消されそうな期待も持っています。来年が日中国交正常化30周年でもあり、さまざまな交流の量もスピードも上がるのではないのでしょうか。音楽を含むエンターテインメントも例外ではないと思っています。

会社概要

株式会社	アジアミュージック・エンタテインメント
所在地	〒106-0032 東京都港区六本木 6-8-5
T E L	03(6909)8266
F A X	03(6909)8313
創立	06年6月2日